

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2170200535
法人名	有限会社 アイシン
事業所名	だいこんの花
訪問調査日	平成 20 年 5 月 7 日
評価確定日	平成 20 年 6 月 21 日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年6月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2170200535		
法人名	(有)アイシン		
事業所名	グループホームだいこんの花		
所在地	岐阜県関市西神野605番地2 (電話)0575-20-0012		
評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会		
所在地	大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成20年5月7日	評価確定日	平成20年6月21日

【情報提供票より】H20.4.22

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	10月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	11 人	常勤	7人, 非常勤	4人, 常勤換算

(2)建物概要

建物構造	1造り		
	階建て	1階	~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円) 無	有りの場合 償却の有無	3ヶ月以内の退去	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(4.22)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	6名				
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均	82.7歳	最低	69歳	最高
					89歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	今峰クリニック・中濃厚生病院・後藤歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

関市北部の緑多い環境で、自然な風の流れを利用した造りのホームである。共用空間である居間に皆が次々と集まって来て、「さあ今日は何しよう?」と楽しいことが起こりそうな人の和がうかがえる。職員も一緒に笑顔で、共に支えあう関係を築いている。また管理者は利用者一人ひとりの夢に向け、家族や行政の協力を得ながら取り組み、ふるさと訪問・お墓参りを実現している。ホームは地域住民の一員として自治会老人会活動に参加しており、地域の小中学校と定期的な交流もあり利用者の楽しみになっている。また地域婦人会など地元住民との関係も、「何かあったら、とんで来る」と密接である。多機能的な地域密着型サービスを同敷地内で一体的に運営しており、地域を支え地域の中で支えられている。地域福祉の核としてより大きな活動が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での運営推進会議を活かした取り組みについては、家族参加や意見徴集・課題検討等が行われている。制度や補助等の相談提案、介護相談員の活用、市担当者の来訪で市との連携がとれてきている。また利用者個人のかかりつけ医と協力医の連携体制も整いつつある。入浴にも改善が見られるなど改善課題を全員で検討し、できる事から対応が進んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員で自己評価に取り組んでいる。その結果、職員は高齢者のお世話から生活全般を観ていける方向になり、スタッフの意識が利用者主体となって、勤務のシフト変更などスムーズに行えるようになった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。避難訓練や行事の報告、評価への取り組み、運営基準変更の検討等々の話し合いがされている。また家族から喫煙についての意見があり、他人の迷惑にならない喫煙場所を検討し、それを実現した。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の来訪時や運営推進会議で意見、不満、苦情など言いやすい雰囲気作りに留意しているが、聞きたくても聞きにくい、言いたくても言い辛い気持ちに配慮して、職員の異動や離職などは定期的な便り等で報告するなど、意見苦情徴集を継続されたい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会や老人会に加入し、地域の一員として活動している。また小中学校と食事会や文化祭等月に1回程度の定期的な交流があり、近く保育園との交流予定もある。地域の清掃活動に参加したり、畑等での協働、農作物をいただく、地域の人の協力を得た避難訓練など、地域に根ざした交流が促進されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしよう。」を事業所独自の理念に掲げている。一人ひとりの思いを大切にしたいということのケアを職員全員が理解し実践を目指している。同一敷地内でNPO小規模多機能型居宅介護(通い・宿泊・訪問)を展開しており、地域密着型サービスの重要性を理解し実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティングで理念を確認し、「個々のその人らしさ」に対応しているか、具体的なケアの振り返りと見直しを統一している。また常時携帯している名札の裏に理念を書き、日々の活動時に留意している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会に加入しホーム付近のごみ拾いを担当したり、畑やビニールハウスで協働し農作物をいただく等良いお付き合いが出来ている。また地域の小中学校と定期的な交流(文化祭、運動会、昼食会)があり、近く保育園との交流予定もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価に取り組むことで、高齢者のお世話から生活全般を観ていける方向になり、スタッフの意識が利用者主体となった。また管理者は、前回指摘があった点についてスタッフと相談しながら、手すりの追加(取り外し可能)や入浴時間帯の延長など改善に取り組んでいて、評価の意義を理解している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表、家族、地元有権者、自治会長、市職員等の参加でイベントや行事を交えて2ヶ月に1回開催されている。避難訓練や行事の報告、運営基準変更検討等の話し合いが行われている。また家族から喫煙についての意見があり、他人の迷惑にならない喫煙場所を検討しそれを実現した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は制度(契約・人員)や研修講座開催、スプリンクラー設置補助等々について提案し話し合いをしている。巡回時などに市担当者の来訪もある。また介護相談員制度を活用(1回/4ヶ月)して質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	健康状態や金銭管理(出納伝票等コピーを郵送)は個々に合わせて報告している。職員の異動や退職等については、家族に報告していないので聞かれる場合がある。		以前は新聞を発行していたが現在は行っていない。利用者の暮らしぶりや職員の異動退職等を便りにするなど、定期的な報告を期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付窓口や担当者、ホーム以外の苦情相談受付機関を説明している。家族の来訪時や運営推進会議で意見、不満、苦情など言いやすい雰囲気づくりをしている。苦情、要望等はミーティングで話し合い、対応、反映している。散歩や喫煙場所の限定等の希望要望の実現例がある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	NPO小規模多機能型やNPOグループホームの増設時に異動が多々あったが、利用者へのダメージを考え、引きつぎを密にすることや同敷地内を利用者が自由に行き来できるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員を段階に応じて育てる取り組みをしている。今までは管理者研修や介護支援専門員資格取得に対応してきた。今後は職員の資質向上のため、研修を考えている状況である。		職員は学びの意欲が多いにあり、同敷地内NPO法人と合同で、接遇や認知症の医学的理解など取り組みを検討している研修計画の実現が求められる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加入し、管理者は中濃支部の研修会に参加し同業者と交流している。職員の相互訪問、勉強会、ネットワークづくりを行い、質の向上につながる活動を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族が事前に来所して見学の間を設けている。また必要に応じて家族からの電話や来訪がある。その他入所までお世話されていた関係者が来てその時間を徐々に減らして馴染んで行ったなど、家族等と相談しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の得意分野で力を発揮してもらい、お互い様という気持ちや感謝するという関係がある。生活の技など学ぶことも多く、それを伝えながら本人の思いに共感し、親しみがあり、気を許してもらっていると思えるときがあるなど相互信頼が成立する関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個別に対応する入浴やドライブ時、またお茶の時間などのゆったりした時に、希望を表せるよう耳を傾けている。その思いに添って、ふるさと訪問やお墓参りなど家族や行政等の協力を得て実現している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者・家族の意見を元にして、ミーティング(定例・緊急)時に職員全員で個別の介護計画作成を検討している。紙パンツが布パンツになる取り組みをするなど利用者及び家族の参加や意見を反映した介護計画となっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に職員全員のモニタリングで利用者の状態を確認したり、担当者会議を行い見直しをしている。また急に状態変化がある場合は、スタッフ・ケアマネージャー・医療関係者等が早期検討、見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入所前のかかりつけ医の受診を家族に代わってホームで行うことがある。また同建物内交流センターに地元婦人部の喫茶店を設け、地域住民との毎日の交流を支援している。活動的な利用者は渡り廊下で繋がっている小規模多機能型居宅介護(通い・宿泊・訪問)を共用型サービスとして日常的に利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	設立時よりかかりつけ医契約をし、現在は内科・歯科・総合の幅広い医療機関との連携により相談や迅速な対応が可能である。また入所前のかかりつけ医の受診は家族が対応しており、時にはそれをホームで支援し、協力医への連携も取れている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に在宅酸素使用利用者や訪問看護サービス利用の方の支援をした例がある。現在、看護師は配置しているものの、職員体制や医療機関との連携が不十分であるため、重度化した場合、入院または他施設への入所となることを契約時に利用者家族に説明し理解してもらっている。		重度化した場合にホームが対応しうる最大の支援を、契約書に明記するなどの検討をお願いしたい。また重度化した場合や「看取り」について、できるだけ本人や家族の要望に沿いたいと考えており、今後の運営・制度面について関係機関や職員との話し合いが望まれる。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者と職員は非常に良い関係が築かれており、言葉かけや対応はやさしく温かく誇りやプライドを害うものではない。ミーティングや勉強会で、職員の意識向上を図ると共に日々の関わり方、対応の徹底に留意している。個人情報の取り扱いには注意し、メモ紙類は裁断機を使用している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床就寝時間はほぼ自由で遅い朝食にも対応している。また喫茶店利用や買物にも体調に配慮しながら、本人の気持ちを尊重し個別性を意識した支援に留意しており、ケアのふり返りもしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い下準備、盛り付け、配膳などを利用者と職員が協働している。昼食は職員も一緒に会話が多きにぎやかである。また利用者一人ひとりが使用した食器を自身で下膳する支援を丁寧に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員と検討相談した結果、入浴できる時間帯を長く(10:00～11:30, 13:30～16:00)して希望の時間に対応している。入浴を拒む利用者には、時間をおいたり別の職員が声をかけるなどの対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意の料理や、道の駅、喫茶店、買物などの外出、お金を持って好きなものを買うショッピングなどの支援をしている。またカラオケの先生が指導する教室(1回/月)や、先生が主催するホールでのカラオケ発表会に着物姿で参加するなどの活動もしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候・体調・気分・希望に配慮しながら、日常的に買物・散歩・花見に出かけている。受薬時もドライブの機会と捕らえている。また外食(1回/月)を楽しめる支援もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中居室や玄関に鍵をかけないケアをしている。危険な居室窓からの出入りには、プリンターを置くなど工夫している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	水の備品や家具転倒予防はしてないが、消防署や喫茶店関係者(5人)の協力を得て、避難訓練(火事・地震災害)を年1回行っている。どのような経路でどこへ誘導するか、嘔吐・出血等処置方法も確認している。夜間の対応も検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量を把握し、体調や運動量を考え、おかゆやきざみ食にするなどの工夫で量や栄養バランスの確保を支援している。また食事量等を記録し検討している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関に花のプランターやベンチがあり季節を感じられ、自然な風の流れを利用した造りになっている。廊下の端には籐椅子があり一人になれる空間作りもされている。居間にはカラオケ発表会の写真が掲示してあるなど、生活感があるゆったりした空間になっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたタンスがあったり、家族が作った壁飾りや写真、ぬいぐるみが飾ってあるなど、利用者個々に応じた設えになっており、居心地よく過ごせる居室になっている。</p>		